

平成26年1月24日

第52号

■発行■



総合病院 社会保険
徳山中央病院
周南市孝田町1-1
☎(0834)28-4411

徳山中央病院だより

平成26年新春に向けて

病院長 林田重昭



今年もまた例年の如く平成26年新春に発行される『徳山中央病院だより』の原稿を書いています。現在、ご存知のように徳山中央病院は年金・健康保険福祉施設整理機構（RFO）に出資されています。平成23年6月14日改正RFO法案が成立し6月24日に公布されました。本法案の主な目的は現在私達の病院の出資先であるRFOを独立行政法人 地域医療機能推進機構（Japan Community Health Care Organization：JCHO・ジェイコー）に改組し、社会保険病院群、厚生年金病院群、船保会病院群を一括運営するものがあります。移行期間は本法公布から3年以内とされていますが、その後平成26年4月1日

よりの移行・運営が決定しています。すでに残すところ約3カ月となり、当院も含め参画が決定している病院はその移行に対する対応に、また日常の診療もあって大変忙しく大汗をかき日々を過ごされていることと想われます。このような状況の一部は既に『徳山中央病院だより』第48、50、51号に記載させて頂きました。

さて目前に迫った独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）への参画にあたり、新機構のミッションについて整理し、当院の取組を検証、更なる整備や、引き続き改善すべき問題点等について検討してみたいと思います。

ミッション① 地域医療、地域包括ケア連携の『要』への取組

新機構（JCHO）の第①のミッションは第6次医療計画における5疾病（がん、急性心筋梗塞、脳卒中、糖尿病及び精神

疾患）、5事業（救急医療、災害時における医療、へき地医療、周産期医療及び小児医療）にしっかりと対応することを求めるものであり、加えて在宅医療並びにリハビリテーション等地域において必要とされる医療及び介護を提供する機能の充実と連携を図り、これらに積極的に取り組みその要となることが期待されています。

従来徳山中央病院は周南市にあつて周南2次医療圏における最も重要な基幹病院として地域医療に貢献及び推進して参りました。この為新機構（JCHO）のミッションの主軸である5疾病5事業については、当院はへき地医療を除き、それぞれ山口県等より多くの指定を受けており、十分な役割を担えるものと思つています。ただ当院はへき地医療については自治体病院ではないため協力病院の申し出に留まつており、新機構への移行後は速やかに、近隣の中山間部や島部への医師派遣等を検討すべきと考えています。一方当院は以前より地域の多くの医療施設と連携し地域完結型医療を推進しており、その役割の第1の柱として、救命救急センターER型、周南地域休日夜間こども

病院の理念及び基本方針

1. 人間としての尊厳を守り、敬愛の心を持って全人的医療を行う。
2. 臨床研究・医学教育に努め、医学の発展・普及に貢献する。
3. 関連機関と連携し、地域の健康と福祉の増進に努める。

急病センター、小児救急医療拠点病院、地域周産期母子医療センター等を運用しており、周南市を始め周南2次医療圏の住民の皆様より大きな信頼を受けています。それでも救急患者の受け入れに不意に或いは病院側の理由で、対応が出来ない事例が散見されます。このような事態については真剣に改善を行う必要があると思います。次に役割の第2の柱として高度・専門医療を推進しているところです。

ミッション② 総合診療医の育成

に強化されてきています。

徳山中央病院の新機構（JCH O）への期待と結語

は変わりないようですが、私は徳山中央病院には今後もこの地域で永く輝き進化する基幹病院を目指して頂きたいと思っています。この為には現在の当院の理念、(1)は何はさておき適切と思えます。(2)については病院の進化にはどうしても必要であると思えます。即ち医療職に限らず全ての職員も入職後にも進歩し優秀な職員に成長してもらいたいと思えます。私自身も大学卒業後比較的早く当院に入職致しましたが、大学時代より何倍も当院の現場での勉強や経験、臨床研究、学会発表、仲間との討論等で大きく成長させて頂いたと思っています。また研究や

指導・教育マインドは教える事と教えられる事は表裏一体で極めて良い結果を生むと思われれます。一方医師の初期臨床研修、大学よりの学生クラークシップ、看護師をはじめコメディカルの病院実習等積極的に行うべきものと思えます。また各部門の臨床研究は個人、病院、引いては一般の医療レベルを上げることにも繋がると思えます。(3)については地域住民の信頼と期待に對して、また当院や私達の存在意義を考えると可能な限り努力すべき事であると思えます。もう残された時間は僅かになりました。徳山中央病院更に進化し永く輝いて下さい。

この為ICU、NICU、SCU、特例緩和医療病棟を整備し運用しています。加えて高度・専門医療を更に進化させるため高額或いは先進的医療機器を整備(表1)運用に努めて参りました。特に平成25年度になり、新機構(独立行政法人 地域医療機能推進機構JCHO)への移行を視野に地域医療に十分対応できるよう整備を進めています。『表1』の如く順調に整備出来たことに対し、関係各位のご理解とご協力で心より感謝致します。尚申し遅れましたが昨年11月30日地域医療支援病院の名称使用の承認を得、加えて総合入院体制加算の施設基準を獲得、また一般病床25床を増床する等地域医療支援への体制は更

に強化されてきています。新機構(JCHO)のもう1つのミッションは総合診療医の育成に協力し、地域医療に貢献することと理解しています。当院は平成25年4月より、総合診療内科を開設し、既にプライマリ・ケア認定医試験を経て、指導医養成講習会の受講修了者は3名となっております。また新たに院内に総合診療医育成プログラムを立ち上げ、更に新たに当院医師約30名、近隣の他クリニクの医師3名が前記指導のもと新たに11月のプライマリ・ケア認定医試験を受験致しました。近い内、多数の総合診療認定医・指導医が生まれるものと期待しています。一方今後の対応として平成26年度には正式な総合診療医育成プログラムを作成、総合診療医育成施設認定を頂き、総合診療内科とER型救命救急センターを中心に病院を挙げて対処したいと思えます。いずれ多くの病院内総合診療医やへき地或いは地域のクリニックにおける総合診療医(家庭医?)が単立つことになることを期待しています。

徳山中央病院の新機構(JCH O)への移行準備は前述の如く粛々と行われており、職員(非職員も含)の移行同意(移行以外の理由による既定退職を除く)も約94%と良く理解して頂き移行初年度より大きな支障なく活発に運営できる体制が整うものと思えます。まだまだ安心出来ると云うわけではなく少数の部署・部門で人員の補強或いは協働・チーム医療による対策等検討する必要があると思えます。また十分な駐車場の整備、耐震補強、外来棟の整備等の必要があると考えますが、先日のプロック内説明会等で新機構へ移行後、計画が出来れば整備は早急に可能との由、大変嬉しく思います。さて前述致した如く徳山中央病院は第2次世界大戦後永きにわたり周南市(旧徳山市)にあつて、周南2次医療圏の重要な基幹病院であり、病院の理念は本紙にも記されていますように(1)全人的医療の実践、(2)臨床研究・医学教育を推進し、(3)連携し地域の健康と福祉に貢献することであり、今回の移行におけるミッションとは大きく

主な医療機器

- 表1.
リニアック放射線治療器1式
PET-CTシステム1式
マルチスライスCT撮影装置(320列)
マルチスライスCT撮影装置(64列)
パイプレーン心血管撮影治療装置
シングルプレーン心血管撮影治療装置
パイプレーン脳血管撮影治療装置
デジタルガンマカメラ装置
高気圧酸素治療装置
磁気共鳴断層撮影装置 (MRI 1.5T)
磁気共鳴断層撮影装置 (MRI 3.0T)
磁気共鳴断層撮影装置 (MRI 3.0T)**
手術支援ロボットDa Vinci (si)**
(Hybrid)手術システムの構築**
全身定位方射線治療器(Novalis Tx)**

**平成25年度新規導入機器